楽観広がる米株式市場の死角

米国の株式市場が堅調に推移している。３日には米連邦準備理事会のイエレン議長が、株価下落を招くことの多い政策金利引き上げの検討を明言したにもかかわらず、ダウ工業株３０種類平均は上昇基調を保った。

米国の株価上昇は日本市場などにも波及し、投資家がリスクをとる動きも活発になりつつある。企業にとっては事業拡大に必要な資本を調達したり、低収益の事業を売却したりする好機でもある。競争力の強化に向け、株高を機動的に生かしたい。

米国で株価上昇が続く背景には、景気の拡大が続いてることがある。１日発表の２月の米製造業景況感指数は５７．７と２年６カ月ぶりの高水準となった。

FRBが同日公表した地区連銀経済報告（ベージュブック）は、米経済の緩やかな拡大が続いているとした。企業業績に目を転じても、IT（情報技術）や金融を中心に増益が定着してきた。

FRBが利上げの姿勢を鮮明にしてることは、こうした実態経済の良さを追認するものと市場は受け止めている。さらに米トランプ大統領の掲げるインフラ投資や規制緩和と言った経済政策への期待感が、株価の上昇を後押ししていると見ることができる。

とはいえ、米株市場の行き先に関して楽観するムードだけでないことも確かだ。

米大統領の経済政策は、先の議会演説でも具体性を欠いた。「予想外に落ち着いていて真面目な演説だった」といった程度の評価で、株式市場の期待をつなぎとめるのは難しい。米政権は政策の肉付けを急ぐべきだ。

世界の投資資金の流れに影響する米長期金利は、上昇しているとはいえ水準はまだ低い。実際にFRBが利上げに動き、米長期金利の上昇の勢いが増すようなことがあれば、日欧や新興国の経済も影響を受けざるを得ない。

グローバルに活動する企業は、資本市場の潮目の変化に十分に目を凝らす必要がある。